

ID No.	3022
研究課題名	One Health に基づく動物由来感染因子のサルにおける病原性解明
研究代表者	柳井 徳磨 (岐阜大学・教授)
研究組織 受入教員 研究分担者	甲斐 知恵子 (東京大学医科学研究所・教授) 中井 裕 (東北大学・教授) 福田 康弘 (東北大学・助教) 和田 崇之 (長崎大学・助教) 吉田 志緒美 (近畿中央胸部疾患センター・流動研究員) 村上 智亮 (東京農工大学・助教) 田中 海里 (岐阜大学・学部学生) 横田 伸一 (東京大学医科学研究所・助教)
研究報告 「ワンヘルス」の考え方をもとに、種々の動物由来の感染因子の病原性をサル類で解明し、ヒトで発生しうる病態とその危険性についての基礎情報を収集した。 1) カニクイザル類を用いた <i>Cryptosporidium andersoni</i> を含む胃感染型クリプトスポリジウムのヒトに対すリスク評価のために、胃感染型クリプトスポリジウムを収集・蓄積し、サルでの病原性を解明し、ヒトでのリスク評価を継続して実施した。2016年は、サルでの実験感染、寄生虫学および病理学的解析のまとめを行った。 2) ウマヘルペスウイルス9型 (EHV-9) を用いた眼粘膜を介したヘルペスウイルス感染の病理発生解明のための基礎実験として、サルにおける眼粘膜接種モデルを確立した。2016年はハムスターでの実験感染、病理学的解析、サルでの実施検討、まとめおよび成果の公表 3) 牛および鶏由来のアミロイドのサル類への伝達の可能性の検討することで、食品を介するヒトでのアミロイドのリスク評価を行った。2016年は、鶏由来のアミロイドのサルでの伝達実験、病理学的解析、牛由来アミロイドのサルでの伝達実験を実施し、病理学的解析、まとめおよび成果の公表。 4) 各種の抗酸菌感染症の病理発生および防御に関する研究として、リスザルおよびカニクイザルを用いた接種実験を行い、環境、動物およびヒトでの病原性獲得のメカニズムの解析を行った。2016年は <i>Mycobacterium Kansasii</i> および <i>Mycobacterium marinum</i> の収集と培養、感染実験を行い、および病理学的解析のまとめおよび成果の公表。	